



七里っ子

【学校教育目標】

確かな学力 豊かな心
健康な体 郷土愛

道志小学校 学校だより 令和6年3月25日

文責：校長 佐藤龍文

素晴らしき1年間の成長 ～令和5年度の軌跡～

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されて、漸くコロナ禍以前の生活に近づいてきた令和5年度ですが、本日、無事に最終日を迎えることができました。これもひとえに毎日子ども達を明るく学校に送り出してくださった保護者の皆様のお陰であり、学校教育にご理解とご協力をいただきましたことに厚く感謝申し上げます。

54名の子ども達と19名の教職員（含む外国語専科・ALT・図書館司書）で歩んできた今年度の道志小学校の歩みを振り返りますと、それぞれのお子さんには大きな成長が見られます。ここでは、学校全体という視点で子ども達の成長についてお伝えしたいと思います。

現在、学校では、「令和の日本型学校教育」として個別最適な学習・協働的な学習に力を入れることが求められています。AIの発達など、コンピュータで個別的な習熟度や個人的な関心・選択に合わせて進める学習形態が、今後、益々増えていくは間違いのないと思います。子ども達は、日常的にコンピュータを扱って様々な学習に取り組んでいます。学年に応じてコンピュータリテラシー（使いこなす力）が着実に身につけてきています。子ども達は、1年生から6年生までドリル学習、調べ学習、話し合い活動、発表、プログラミングなどの場面で一昔前では考えられない高いレベルでの活動を実施しています。すごい成長だと思います。

一方で、複数人で何か一つのことに関わって相談したり、何かを作ったり、結論を出したりする活動の重要性も増えています。人が集まって学習する場である学校の価値は、協働的な学習場面においても大きいと考えています。今年度実施した「令和のやまなし教育活動モデル事業」の中でも、人と関わる上で必要なコミュニケーション力や表現力を育成する取組をたくさん行ってきましたが、子ども達は、素晴らしい成長を見せてくれました。例えば、児演協のワークショップで行った友だちと一緒に一つの表現を作る活動では、生き生きとした表情で、それぞれの子どもが発想したアイデアを出し合い、相談しながら発表につなげていました。また、児童会活動での様々な取組でも、七里っこ祭りや秋季大運動会、音楽集会、6年生に贈る会など同学年や異学年集団で協力し合い、上手に一つの活動にまとめていく姿が見られました。

個別的な学習、仲間との協働学習、どちらも大きく前進した1年だったと考えています。

「あゆみ」を通じた親子の会話を！ ～1年の振り返りの大切さ～

本日、お子さんに「修了証書」を収めた「あゆみ」を渡しました。まずは、今回の「あゆみ」には、3学期の学習状況が詳しく記されていますが、1学期からの記録を丁寧に見ていただき、1年間のお子さんの頑張りを認め、褒めてあげてください。そして、お子さんの強みや課題とするところを確認していただければと思います。

「あゆみ（通知票）」は、保護者の皆さんが子ども時代に受けてきた集団の中でどの程度学力があるかを評価する相対的評価ではなく、個人として具体的な学習内容についてどのくらい理解できているかを評価する個人内の絶対評価になっています。つまり、人と比べるのではなく、本人の特性を捉えることを目的にしています。

日本という国の未来を考えると、平均的な学力ではなく一人ひとりの子どもの個性や特性（好きなことや得意なことなど）を働くことにつなげていくという視点が必要です。「あゆみ」の記録は、各担任が、時間をかけて丁寧にお子さんの様子を記録したものであり、お子さんのことを詳しく知るきっかけになります。是非、効果的に生かしていただければと思います。お子さんと話す中で、今後の学習の在り方を考えたり、特性を生かす経験について検討したりすることに役立てられると思います。是非、春休みの間にお子さんたくさん話をしてあげてください。

教職員一同、至らない点もあったことと思いますが、1年間お子さんの指導に携わらせていただき、一人ひとりの成長を間近で見守ることができました。たくさんの幸せと感動をいただきました。保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。